

Trimble Access

バージョン 2025.10リリースノート

このリリースのTrimble® Access™ソフトウェアには、次の変更点が含まれています:

新機能および機能強化

より迅速で簡単な交会法のための交会法の改善

トータルステーション測量中に交会法を実行する際、ターゲットが配置されているポイントの名前を必要とせず、交会法の計算を行うことができる自動交会法機能が組み込まれるようになりました。この機能により、恒久的な基準点にターゲットが複数設置されている複雑な現場でも、交会法を素早く実行することができます。

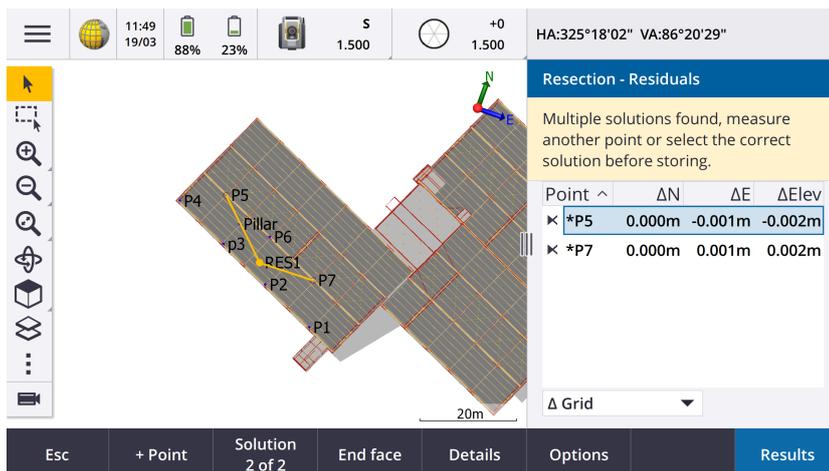
自動交会法機能を使用するには、ポイント名がジョブまたは関連CSV、TXT、またはジョブファイルに含まれていることを確認してください。

自動交会法機能を使用するには、ターゲットへの測定時にポイント名フィールドを空白のままにします。Trimble Accessソフトウェアの自動交会法ルーチンは、観測結果をジョブまたはリンクファイル内の適合する可能性のあるポイントと自動的に一致させます。

使用可能な解が複数見つかった場合は、解ソフトキーを使用して解を順に表示し、**交会法 - 残差**フォームとともにマップ上で確認することができます。必要に応じて、選択したポイントを変更して交会法を再計算したり、別のポイントまでの測定を実行することができます。

現在の解のどれが正しいか分からない場合、あるいは正しいものがあるのかも分からない場合は、次のいずれかを実行できます。

- ポイントのうちの一つの名前がわかっている場合は、観測値のうちの一つを強調表示し、**詳細**をタップしてポイントの名前を入力します。
- どのポイントの名前もわからない場合は、**+ ポイント**をタップして別の観測値を追加します。



また、すべての交会法について以下の改善を行いました:

- ポイント名と面番号が測定フォームに表示されるようになりました
- 交会法中にポイント名を変更できるようになり、その際は再計算されるようになりました。

- マップが**交合法 - 残差**フォームの横に表示されるようになりました。交合法観測はマップ上で黄色で表示され、計算された測点は塗りつぶされた黄色の円として表示されます。
- **後視**チェックボックスの名称は**前視のみ**に変更され、初期設定では選択されていません。この変更は、器械設置(複数後視点)でも行われました。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の**交合法を実行する**トピックを参照してください。

交合法および器械設置(複数後視点)の前視のみチェックボックス

交合法および器械設置(複数後視点)ワークフローの**後視**チェックボックスは、わかりやすさを向上させるために**前視のみ**に名称が変更されました。このチェックボックスは、初期設定でオフ/未選択になりました。有効にすると、観測結果は前視観測として保存され、交合法または器械点設置計算から除外されます。

改善された測定コードの編集

測定コード機能で、線画の作成方法とコードの保存方法について、2つの異なるワークフローがサポートされるようになりました。特徴コードライブラリをTrimble AccessまたはFeature Definition Managerで作成する場合、新しい**ラインとコード**フィールドで、次のオプションから選択できるようになりました。

- ポイント上のコードを使用して特徴コード化された線画を作成する
- ライン上のコードを含むポリラインを保存

ポイント上のコードを使用して特徴コード化された線画を作成する、は多くのTrimble Accessのお客様が長年にわたって使用してきた方法です。この方法では、FXLで定義されたリッチポイントシンボルと線画を、ポイントとともに保存されているコードに基づいて作成できます。ジョブには線図は保存されません。DXFファイルは、シンボルと線図を含め、Trimble Accessからエクスポートすることができます。Trimble Business Centerでは、特徴コードを処理し、オフィスで同じ線画を再現することができます。

特徴コード化した線画を、**ポイント観測**画面と**地形測定**画面、および**測定コード**画面で作成できます。制御コードを使用してラインを開始すると、ラインは主にポイントが作成される順序によって定義されます。つまり、特徴コード化された線画は、線に沿って点を順番に測定する場合には効果的ですが、他の点を挿入するために線画を変更するのは難しくなります。

ライン上のコードを含むポリラインを保存は、現在のジョブ内に保存されるポリラインおよびポリゴンに対し、FXLで定義されたさまざまな要素を含むラインワークを作成し、コードをそのラインまたはポリゴンとともに保存します。ポリラインやポリゴンは、既存のポイントと新しく測定されたポイントの両方を使用して簡単に作成することができます。ポイントは、ポリラインやポリゴンに簡単に挿入したり、削除したりすることができます。DXFファイルは、シンボルや線画とともにTrimble Accessからエクスポートできます。ポリラインとポリゴンはTrimble Business Centerにインポートされます。

ライン上にコードを含むポリラインを保存することは、地籍ワークフローなど、順不同でポイントを測定する必要がある場合に非常に便利です。地籍測量では、多くの場合、最初にすべての境界の前部に沿ったポイントを測定し、次に境界の後部に沿ったポイントを測定します。境界前部のポイントを測定したら、境界前部のポイントを選択でき、境界後部のポイントを測定すると区画ポリゴンが作成されます。境界ポイントが見落とされることがあっても、必要に応じてポイントをポリラインまたはポリゴンに簡単に挿入できるようになりました。

詳細については、[Trimble Accessヘルプ](#)の「**測定コード**」の「**ポリラインとポリゴンの測定**」をご参照ください。

シェープファイルへのエクスポートの機能強化

ジョブデータをEsriシェープファイル形式にエクスポートする場合、Trimble Accessはライン、円弧、ポリラインをエクスポートするようになりました。以前は、Trimble Accessはすべてのデータをポイントとしてエクスポートしていました。**ポイントを含める**、**ラインを含める**、および**領域エリアを含める**チェックボックスを使用して、含める特徴ジオメトリタイプを選択します。

エクスポート中に、1セットのシェープファイル(.shp、.shx、.dbf、.prj)は、オブジェクトタイプ(ポイント、ライン、円弧、ポリライン)ごとに書き出され、使用される特徴コードごとに1セットのシェープファイルが書き出されます。.shp、.shx、.dbf、.prjコンポーネントをZipファイルとしてシェープファイルとしてエクスポートするには、**Zipファイル**チェックボックスをオンにします。

関連ファイルまたは背景図のアイテムからポイント、ポリライン、ポリゴンを作成する

関連ファイル(DXFシェープファイルやEsriシェープファイルなど) 内で選択した項目、またはKML背景ファイルやKMZ背景ファイル、あるいはウェブフィーチャサービス(WFS) から、Trimble Accessジョブにポイント、ポリライン、ポリゴンを作成できるようになりました。

ジョブに項目を作成するには、含める項目をマップから選択し、タップ& ホールドメニューから**選択したも**から**作成**を選択します。選択した項目の属性もジョブにコピーされます。

ジョブでポイント、ポリライン、ポリゴンを作成したら、通常どおり杭打ちや測量計算機能に使用できます。

必要に応じて、ジョブにコピーしたポリラインやポリゴンを編集して、新しい測定ポイントを挿入することもできます。

- ポリラインに一つのポイントを挿入するには、マップでポイントとポリラインを選択します。ポイントを挿入するセグメントの近くにあるポリラインを長押しし、**ポイントの挿入**を選択します。同じプロセスを使用してポリゴンにポイントを挿入します。
- ポリラインからポイントを削除するには、マップ内のポイントを選択し、タップアンド ホールド メニューから**[ポイントの削除]**を選択します。同じプロセスを使用してポリゴンにポイントを挿入します。

BIMモデル内の六角ボルトの中心線の計算

中心線の計算の測量計算機能で、BIMモデル内の六角ボルトの一般的表現の中心線を計算できるようになりました。

中心線の計算測量計算機能は、マップのタップ& ホールドメニューからのみ使用できます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプの中心線の計算](#)のトピックをご参照ください。

角度のついた辺に対する計測した距離機能の強化

計測した距離測量計算機能を使用する場合、前の辺に対して直角ではない辺を追加できるようになりました。

新しい**方向の定義方法**フィールドから、次の項目を選択できます。

- 次の辺が前の辺の左または右に90°になる場合は、**直角**を選択します。
- 次の辺が最初の辺の左または右に対して90°以外の角度になる場合は、**前後および左右**を選択します。前後および垂直の距離を入力すると、ソフトウェアが自動的に辺の角度と長さを計算します。計算された長さを承認するか、あるいは必要に応じて長さを測定して入力します。
- **角度をキー入力**を選択すると、次の辺に必要な角度をキー入力することができます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプの計測した距離](#)のトピックをご参照ください。

ステータスバーのターゲットアイコンの改善

トータルステーション測量中に、ステータスバーのターゲットアイコンが、**ターゲット**画面で選択されたターゲットの種類を反映するようになりました。

オートロックが有効で、機器がターゲットにロックされている場合、プリズムアイコンに加えて南京錠アイコンが表示されます。機器がロックされていない場合、プリズムアイコンの周りに赤い点滅するハローが表示されます。

選択した開始測点を基準とした杭打ち測点

比例法で測点を杭打ちする場合、新しい**測点に比例**フィールドで開始する測点を選択できるようになりました。これは、設計は0.00から開始されるが、設計の開始測点ではない測点から測点間隔設定を構成する場合に便利です。たとえば、**測点に比例**フィールドに500.00と入力し、**測点間隔**フィールドに30.00を入力すると、500.00、530.00、560.00、590.00などの位置で測点が生成されます。

以前のバージョンと同様に、設計が0.00以外の値から開始する場合にも**比例法**を使用することができます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプの杭打ち可能な測点のトピック](#)を参照してください。

SXスキャニングトータルステーションの動画画面に測量計算グラフィックが表示されるようになりました

Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションに接続すると、動画画面には、マップと同様に、測量計算機能で選択したポイントに黄色のハイライトと線が表示されるようになりました。

自動接続画面からGNSS受信機モードを選択

接続画面の自動接続タブで受信機モードを選択できるようになりました。Trimble GNSS受信機チェックボックスをオンにし、基準局または移動局を選択します。これらのオプションは、ソフトウェアがGNSS基準局に接続またはBluetoothタブのGNSS移動局に接続フィールドで構成された受信機に接続を試みるかどうかを制御します。

以前は、受信機モードはGNSS機能画面でしか設定することができませんでした。

ウェブ特徴サービスのダウンロード

以前のバージョンのソフトウェアでは、WFS地形特徴点のダウンロード時に最大境界ボックスとして100kmの範囲が適用されていました。この制限は削除されました。WFS地形特徴点は、その範囲の広さに関係なく、WFSの設定時に指定した範囲内でダウンロードされるようになりました。

Trimble Connectとファイルを同期するときのステータスメッセージの改善

Trimble Connectからのファイルのダウンロードまたはアップロードに失敗した場合には表示されるメッセージを改善しました。新しいメッセージには、同期が失敗した理由が表示されます。

Trimble Connectでプロジェクトからファイルが削除されると、Trimble Accessに表示されるメッセージでファイルが削除されたことを報告し、コントローラーからローカルファイルを削除するように求めるようになりました。以前は、このメッセージでは、ファイルの新しいバージョンがダウンロード可能であると誤って報告していました。

IFC線形 - 鉛直円弧

Trimble Accessでは、IFC 4.3ファイルの垂直円弧のある線形がサポートされるようになりました。

日本用QZSS CLASサポート

日本のユーザは、QZSS CLAS PPP信号を使用して測量を行うことができるようになりました。RTK測量スタイルの移動局オプション画面の測量タイプで、放送フォーマットをQZSS CLASに設定できるようになりました。QZSS CLASは、日本のセンチメートルレベルの全国測位PPP-RTK補正サービスを提供します。補正情報はQZSS L6D信号で放送され、GPS、GalileoおよびQZSSを含む複数のGNSSに対応しています。ファームウェアバージョン6.26以降で正しいオプションが選択された受信機を使用する必要があります。

Android 14

Trimble Accessアプリケーションは、Androidコントローラーで最新のプライバシー保護を提供するAndroid14オペレーティングシステムを念頭に構築されています。AndroidデバイスにTrimble Accessをインストールするときに、安全でないアプリケーションをインストールしていることを示唆するメッセージは表示されなくなりました。

注意 - 特定のAndroidビルドのアプリケーションビルドを念頭に構築されたことと、アプリケーションをインストールできるAndroidのバージョンとは関係ありません。Trimble Accessは、Android 13以前を搭載しているコントローラーでも引き続き使用することができます。

Android 14に組み込まれたセキュリティが強化された結果、Trimble Accessソフトウェアは、ソフトウェアを初めて実行するときにストレージへのアクセスを許可するように求めます。Trimble Accessからコントローラ上のファイル、プロジェクト、ジョブ、データファイルおよびシステムファイルの保存およびアクセスを行うには、ストレージへのアクセスの許可が必要です。

座標系データベース更新

Trimble Accessと共にインストールされるTrimble座標系データベースには、以下の拡張強化が含まれています:

- REDGEOMIN(チリにおける鉱業)のサポートを追加
- コスタリカでのCR-SIRGASのサポートを追加
- US SPCS 2022のアルファ版を追加
- ドバイのRTXを固定
- サウジアラビアで現在も使用されているMOMRA VRSのサポートを追加
- オレゴン州の低歪み投影ゾーンを追加
- サウジアラビアで現在も使用されているレガシー座標系「Ain el Abd 1970」のサポートを改善
- カナダの新しい速度モデルを追加

ヘルプおよびリリースノートがポーランド語で利用可能になりました

一般観測 / 基本観測、道路、トンネルおよび採掘鉱のTrimble Accessヘルプがポーランド語で提供されるようになりました。ヘルプは、ポーランド語の言語パックをインストールしてコントローラにインストールするか、help.fieldsystems.trimble.com/trimble-access/latest/pl/home.htmのTrimble Field Systemsヘルプポータルで表示することができます。

Trimble Accessバージョン2025.10リリースノートは、ポーランド語版も提供されています。以前のバージョンにつきましては、英語のリリースノートをご参照ください。

ハードウェアのサポート

Trimbleミニプリズム

Trimble Access 2025.10では、新しいTrimbleミニプリズムがサポートされています。

解決された問題

- **クラウドプロジェクトを削除できない:** 管理者がプロジェクトから退出した後も、またはプロジェクトからの割り当てが解除された後も、プロジェクトに割り当てられているように見えるため、クラウドプロジェクトを削除できない問題を修正しました。
- **ジョブ画面の項目が応答しない:** ジョブのダウンロードを開始し、すべてのファイルのダウンロードが完了する前にEscキーをタップした場合、ジョブ画面の一部の項目をタップしても応答がない問題を修正しました。インポートソフトキー、各ジョブの横にあるダウンロードアイコン、ダウンロードメニュー項目などが応答しませんでした。
- **ジョブの同期ステータス:** Trimble Accessの同期スケジューラを使用して自動同期を完了した後、ジョブのステータスが更新中のままになる問題を修正しました。
- **レイヤーマネージャーのクラウドファイル:** クラウドから最新バージョンのファイルをダウンロードした後、レイヤーマネージャーのポイントファイルタブとマップファイルタブでファイル名が赤のままになる問題を修正しました。
- **Trimble ConnectからのWMTSファイル:** Trimble ConnectからコントローラにダウンロードされたWMTSファイルが、システムファイルフォルダではなくプロジェクトフォルダに保存される問題を修正しました。
- **プロジェクト画像:** Trimble Accessを初めて実行するときに、コントローラカメラを使用してキャプチャした画像を新しいプロジェクトの画像として選択できない問題を修正しました。

- **JXLのジオイドファイルのダウンロード:** JXLファイル(TBCからエクスポートされたジョブ)からジョブを作成する際に、コントローラがインターネットに接続されているが、ジオイドファイルが自動的にダウンロードされず、ジョブを開けなかった問題を修正しました。
- **関連シェープファイル内のポイントがマップに表示されない:** 標高がヌル値の座標を持つポイントがマップに表示されない問題を修正しました。
- **関連付けられたシェープファイル内のポリラインとポリゴンがマップに表示されない:** 同じ北距または東距を持つ隣接するポイントを持つポリラインまたはポリゴンが、Trimble Accessではマップに正しく表示されないが、Trimble Business Centerでは正しく表示される問題を修正しました。
- **ウェブ特徴サービスレイヤー:** ウェブ特徴サービスの一部の曲線レイヤーと面レイヤーがTrimble Access2024.01以前で利用可能だったが、Trimble Accessには読み込まれなかった問題を修正しました。
- **マップフィルタのクリア:** レイヤーマネージャのフィルタタブを使用してフィルタを適用すると、ワイルドカード検索画面で任意のフィールドに*を入力するか、リセットをタップしてフィルタをクリアしようとしても効果がないという問題が修正されました。
- **マップのダークモード:** ダークモードが有効になっている場合のマップ内の一部のアイコン、特にターゲットアイコンの見え方を改善しました。
- **リスト属性:** ジョブがJXLファイルから作成された場合に、拡張リスト属性または「複数選択」属性がポイントから欠落していた問題を修正しました。
- **測定コードボタンが更新されない:** ジョブに別の特徴ライブラリJXLファイルを選択すると、測定コード画面のボタングリッドに割り当てられたコードが更新されなかった問題を修正しました。
- **測定コードの自動測定設定がオフセット測定に適用されなくなりました:** 測定コードオプション画面で自動測定設定が有効になっている場合、トータルステーション測量で距離オフセット、GNSS測量で水平チルトオフセットなどのオフセット方法を使用して測定する際に、ソフトウェアは自動的にポイントを測定しなくなりました。
- **面選択:** 切土/盛土デルタの面を追加すると、プロジェクトフォルダ内のすべての面ファイルではなく、レイヤーマネージャで表示または選択可能に設定された面ファイルのみが面リストに表示されるようになりました。
- **面標高:** マップに表示される面標高に鉛直方向の工事オフセットが含まれていなかった問題を修正しました。
- **キー入力されたポリライン:** ポイントが降順で表示されるポイント範囲を使用してポリラインをキー入力した場合、ポリラインのプレビューは正しく表示されるが、作成後はポイントが昇順でポリラインに追加されるため、ポリラインのジオメトリが正しく表示されないという問題を修正しました。
- **ポリラインのキー入力:** ポイント範囲を使用してポリラインをキー入力したときに、指定範囲外のポイントが含まれることがあった問題を修正しました。以前は、ポイント範囲で指定されたポイント名と最初の数文字が同じポイントも含まれてしまっていました。例えば、T1-T4というポイント範囲を入力した場合、T1CとT2Dという名前のポイントも含まれていました。
- **面までの垂直距離:** 機器のセットアップの標高が面の標高と近いトータルステーションを使用して面までの杭打ちを実行しているときに、Trimble Accessが垂直な切土/盛土を、盛土ではなく切土、または切土の代わりに盛土と報告することがあった問題を修正しました。Trimble Accessは、現在の位置が面の上または下にある場合にのみ、**現在位置から面までの垂直距離**を報告し、使用される用語が切土または盛土ではなく**上または下**になりました。
- **逆算の計算:** ポイントの一つがキー入力された方位角によって定義された後視ポイントである場合、**逆算の計算**測量計算機能が計算に失敗する問題を修正しました。
- **単独ポイント計測距離調整:** 単独のポイントで開始された計測距離の測量計算調整の閉合差が、回転を適用する前に計算される問題を修正しました。閉合差は、回転が適用された後に計算されるようになりました。
- **パノラマ:** Trimble S Seriesトータルステーションに接続しているときに、先にビデオ画面を開いてからパノラマ画像を作成しないと、ビデオフィードがフリーズしていた問題を修正しました。

- **ファンクションキーを使用したターゲットの変更: ターゲットの変更機能を有効にするのにコントローラーのファンクションキーを設定したときに発生していた次の問題を修正しました。**
 - ファンクションキーを押してターゲットを変更しても、開いているすべての画面またはフォームでターゲットが変更されませんでした。
 - 以前に設定されたターゲットが削除されて新しいターゲットが追加された場合、ファンクションキーを複数回押しても、すべての設定済みターゲットが順次表示されませんでした。
- **AT360のチルト距離:** AT360アクティブターゲットに接続すると、**AT360のチルトセンサーオプション**画面に**チルト距離**の値が表示されるようになりました。以前は、この値は常に「?」として表示されていました。
- **EM940無線設定:** Empower EM940 RTK無線モジュールで国を設定する際の動作を改善しました。チャンネル帯域幅と国を変更するときに表示される利用可能なオプションは、各国で許可される設定をより適切に反映するようになりました。
- **Androidショートカットを使用したら機器の接続が失われる:** Androidデバイスの**電源**キーをすばやく2回続けて押すと、デバイスと機器の間の接続が失われていた問題を修正しました。**電源**キーをすばやく2回続けて押すのは、カメラアプリを開くための一般的なショートカットです。修正後は、**電源**キーをすばやく2回続けて押すとカメラアプリが開き、機器の接続は維持されるようになりました。コントローラーの**電源**キーを2回押すときに、1回目と2回目の間が少し空くと、画面がオフになるようになりましたが、機器の接続は維持されます。
- **メモの確認:** 英数字キーパッドがないコントローラーでメモを確認するときに、画面キーボードが自動的に表示されるようになりました。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - Windows搭載コントローラーでTrimble Accessソフトウェアを起動すると、サブスクリプションユーザーにアプリケーションエラーが発生することがありました。
 - ジョブを作成し、KMLファイルまたはKMZファイルに関連付けようとするとき。
 - ポイント名フィールドが自動的に入力されなかった線形の杭打ちを実行する場合。
 - ポイントへのナビゲーション中に器械点設置を実行する場合。
 - 統合測量中、機器が接続されたばかりでビデオストリームの開始中にGNSSで杭打ちを開始するとき。
 - トラバースを編集し、**開始測点**フィールドに存在しない測点番号を入力する場合。
 - 縦置きモードで実行されているコントローラで**ポイントまでナビゲート**画面が開いているときに、**杭打ちオプション**画面を表示した後。

道路

機能強化

ストリングと面の最も近いストリングへの杭打ち

ストリングや面から杭打ちを行う場合、**杭打ち**フィールドから**最も近いストリング**まで法を選択できるようになりました。**最も近いストリング**までの杭打ち方法では、現在位置に最も近いストリングに移動することができるため、道路を横切ると、位置の移動を反映して、杭打ちの基準にしているストリングも自動的に変わります。

選択した開始測点を基準とした杭打ち測点

比例法で測点を杭打ちする場合、新しい測点に比例フィールドで開始する測点を選択できるようになりました。これは、設計は0.00から開始されるが、設計の開始測点ではない測点から測点間隔設定を構成する場合に便利です。たとえば、測点に比例フィールドに500.00と入力し、測点間隔フィールドに30.00を入力すると、500.00、530.00、560.00、590.00などの位置で測点が生成されます。

以前のバージョンと同様に、設計が0.00以外の値から開始する場合にも比例法を使用することができます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプの杭打ち可能な測点のトピック](#)を参照してください。

IFC線形 - 鉛直円弧

Trimble Accessでは、IFC 4.3ファイルの垂直円弧のある線形がサポートされるようになりました。

解決された問題

- **ストリングと面:** ストリングと面に関する以下の問題を修正しました:
 - 水平方向の工事オフセットが横断表示に正しく表示されるようになりました。
 - 縦断線形の最後の要素の入勾配の値が正しく計算されるようになりました。
- **面までの垂直距離:** 機器セットアップの標高が面の標高と近いトータルステーションを使用して面までの杭打ちを実行しているときに、Trimble Accessが垂直の切土/盛土を、盛土ではなく切土、もしくは切土ではなく盛土として報告することがある問題を修正しました。Trimble Accessは、現在の位置が面の上または下の場合のみ現在の位置からの面までの垂直距離デルタを報告するようになり、使用される用語も切土および盛土ではなく、**より上**および**より下**に変更されました。
- **ターゲットからの面までの垂直距離:** ターゲットからの面までの垂直距離デルタは使用できなくなりました。このデルタはTrimble Access 2024.10で導入されましたが、ユーザからのフィードバックによると、使用が限られており、混乱のもととなっていました。
- **IFCファイルの縦断線形:** IFCファイルの縦断線形の重複するポイントが削除されるようになりました。
- **IFCファイルの放物曲線:** IFCファイルで放物曲線の要素が正しく表示されない問題を修正しました。
- **面標高:** マップに表示される面標高に鉛直方向の工事オフセットが含まれていなかった問題を修正しました。
- **LandXML属性の最も近いストリング:** 最も近いストリングまで法を使用してLandXML道路を杭打ちする際に、複数のブレークラインを持つ一部のストリングが最も近いストリングに正しく更新されない問題を修正しました。
- **LandXML横断道路:** Trimble Access 道路でLandXMLファイルを初めて使用するとき使用するアルゴリズムを改善し、LandXML横断道路は自動的にTrimble RXL道路に変換されるようになりました。新しいアルゴリズムでは、LandXMLファイル内のポリラインからRXL線形を作成するときの円弧から弦の分離が縮小されます。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - ポイント名フィールドが自動的に入力されなかった道路または線形の杭打ちを実行する場合。
 - データセットに空白のポイント名が含まれている12daファイルを表示する場合。Trimble Accessは、これらの空白ポイントに接尾辞が付いたストリング名を適用するようになりました。

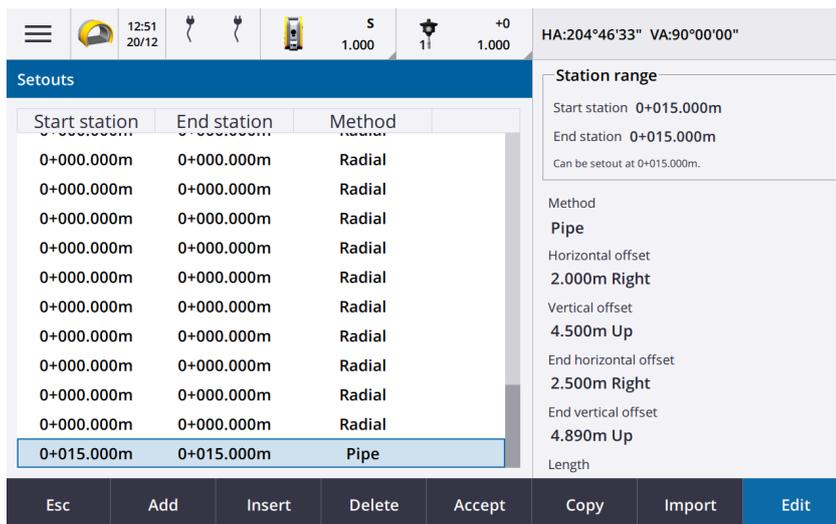
トンネル

機能強化

トンネルセットアウト位置

セットアウト位置を定義する際のセットアウト位置画面で、以下の機能強化を実施しました。

- 水平オフセットと垂直オフセット列を一つの方法列に置き換えました。
- 新しい測点範囲グループボックスは、開始測点フィールドと終了測点フィールドを視覚的に整理し、定義された測点範囲の説明を含んでいるため、セットアウト位置が正しい測点範囲内にあるかどうかを簡単に確認することができます。



杭打ち中の掘り不足と余掘りデルタ

Trimble Access トンネルソフトウェアは、トンネル線形に杭打ちするとき、またはトンネル線形上の測点に杭打ちするとき、掘り不足と余掘りのデルタを表示するようになりました。

解決された問題

- **ポイントをマークする:** トンネル内の位置をセットアウトするとき、**ポイントをマークする**プロンプトがより長く表示されるようになりました。
- **スパイラルトンネル:** ソフトウェアが、複数のレベルにわたってループして戻るスパイラルトンネルの上部トンネルを誤って下側トンネルとして識別する問題を修正しました。

採掘鉋

解決された問題

- **自動杭打ち間隔の長さ:** 間隔の長さの小さな変動により、誤ったポイント生成が発生する問題を修正しました。間隔を計算するときに、ソフトウェアはポイント間の間隔の長さの30%を最小間隔として使用するようになりました(たとえば、5mの間隔の場合は1.5m)。この修正は、中心線、出来形ライン、レーザラインの自動杭打ちに適用されます。
- **自動杭打ちポイント選択:** マップ上の二つのポイントを選択して自動杭打ちを開始した場合、自動杭打ちタイプを選択した後ポイントを再度選択する必要がある問題を修正しました。
- **発破孔のセットアウト:** セットアウトの準備中に発破孔を示すマップ上のグラフィックが、セットアウトが開始すると消えてしまう問題を修正しました。
- **ポイントをマークする:** 線またはポイントの自動杭打ちを行うときに、**ポイントをマークする**プロンプトがより長く表示されるようになりました。

Mobile Inspector

機能強化

Trimble Access 2025.10では、Trimble Access Mobile Inspectorアプリに対して以下の機能強化が行われました。

- Trimble Access Mobile Inspectorは、Trimble Androidデバイスで利用できるようになりました。
- Trimble Access Mobile Inspector Measurement Service(MIMS) は、Trimble Measure Serviceにブランド名が変更されました。
- 計算方法とデータの視覚化の改善。
- [Trimble Access Mobile Inspectorヘルプ](#)がTrimble Accessヘルプの一部になり、**Trimble Field Systems ヘルプポータル**で表示できるようになりました。

サポートされている機器

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2025.10は、下記のソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最適です。

注意 - 最高のパフォーマンスを維持するため、ハードウェアには常に使用可能な最新のファームウェアをインストールしてください。

最近のソフトウェアおよびファームウェアバージョンに関する詳しい情報は、[Trimble地球空間ソフトウェアおよびファームウェアの最新リリース文書](#)をご参照ください。

サポートされているコントローラ

Windows端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のWindows®デバイスで実行可能です:

- TrimbleTSC7コントローラ
- Trimble T7、T10、T10x、またはT100タブレット
- 対応 サードパーティー製タブレット

サポートされているサードパーティー製タブレットの詳細については、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート 公示](#) ページからダウンロードできるサポート公示 **Trimble Access on 64-bit Windows 10 & 11**を参照してください。

Android端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- TrimbleTSC5コントローラ
- Trimble TDC6ハンドヘルドデータコレクタ
- Trimble TDC600ハンドヘルドデータコレクタ
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機(Trimble Access受信契約の場合のみ)
- TrimbleTCU5コントローラ

ヒント - Trimble Accessは、**TDC6およびTDC600ハンドヘルド**の、**縦長モード**と**横長モード**の両方で使用することができますように設計されています。縦長画面およびAndroid OSを使用できるようにするためにユーザインターフェースが多少異なっています。詳細については、[Trimble Accessヘルプ](#)の**Trimble Accessワークスペース**のトピックを参照してください。

注意 - **Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機**は、Trimble Accessサブスクリプションでのみ使用することができます - Trimble Access永久ライセンスでは使用することはできません。TDC650はGNSSのみの測量的のために設計されており、トータルステーションへの接続はサポートされていません。トータルステーション測量を必要とするTrimble Accessアプリは、TDC650では使用することはできません。これらには、Trimble Accessトンネル、採掘鋤、モニターがあります。Trimble AccessでTDC650を使用する方法については、下記の**サポート対象のGNSS受信機**セクションを参照してください。

サポート対象の一般機器

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能な従来型機器は以下の通りです:

- Trimbleスキヤニングトータルステーション: SX12、SX10
- TrimbleVX™スペシャルステーション
- TrimbleS Seriesトータルステーション: S9、S7、S5 と S8、S6、S3
- Trimble機械式トータルステーション: C5、C3、M3、R4、M1
- TrimbleSPS Seriesトータルステーション
- Trimble RTS Seriesトータルステーション
- Spectra® Geospatialトータルステーション: FOCUS® 50/35/30
- サポート対象のサードパーティー製トータルステーション

Trimble Accessソフトウェア内で使用可能な機能は、接続された機器の型式およびファームウェアバージョンによって異なります。Trimbleでは、本バージョンのTrimble Accessを使用されるに当たって、入手可能な最新のファームウェアに機器をアップデートすることをお勧めします。

注意 - TSC5コントローラー、TDC600モデル2ハンドヘルドとTDC6ハンドヘルドからTrimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションに接続することができます。ただし、TCU5コントローラーとTDC600モデル1ハンドヘルドを使用する場合、Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションへの接続はサポートされません。

サポート対象のGNSS受信機

Trimble Accessを実行中のコントローラーに接続可能なGNSS受信機は、以下の通りです:

- TrimbleRシリーズ統合GNSS測量システム:
 - 慣性測定ユニット(IMU)内蔵: R980、R780、R12i
 - 磁力計チルトセンサ内蔵: R12、R10
 - その他のRシリーズ統合GNSS受信機: R580、R8s、R8、R6、R4、R2
- Trimble Catalyst™ GNSS測位サービス受信機: DA2
- TrimbleモジュラーGNSS測量システム: R750、R9s、NetR9 Geospatial、R7、R5
- TrimbleSPSシリーズGNSSスマートアンテナ: SPS986、SPS985、SPS985L、SPS785、SPS585
- TrimbleSPSシリーズGNSSモジュラー受信機: SPS85x
- TrimbleAlloy GNSS基準局受信機
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機
- 慣性計測ユニット(IMU)内蔵型Spectra Geospatial GNSS受信機: SP100
- Spectra Geospatial内蔵GNSS受信機: SP85、SP80、SP60
- Spectra GeospatialモジュラーGNSS受信機: SP90m
- FAZA2 GNSS受信機
- S-Max GEO 受信機

注意 -

- Trimble Accessで**TrimbleDA2GNSS受信機**を使用するには、有効なCatalystサブスクリプション契約があり、かつサインインしている必要があります。ユーザまたはコントローラに割り当てられているライセンスの種類は、☰をタップして**情報**を選択すると表示されます。詳しくは、[Trimble Access ヘルプのTrimble Accessのインストールのトピック](#)を参照してください。
- 上記のサポートされているコントローラセクションで説明されているように、**Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機**は、Trimble Access利用契約でのみ使用することができます(永久ライセンスでは使用できません)。Trimble Accessで使用する場合、TDC650は:
 - Trimble® Zephyr™ 3アンテナなどの外部アンテナには接続できますが、他のGNSS観測には接続できません。
 - エコーサウンダーやレーザ測距儀などの他の測量機器に接続することができます。
 - GNSS RTK 解としてのみ使用することができ、以下の精度を提供します:
 - センチメートル精度 - 水平: 10mm、鉛直: 15mm
 - デシメートル精度 - 水平: 70mm、鉛直: 20mm
 - サブメートルの精度 - 水平: 300mm、鉛直: 300mm
 - RTXでは使用できず、後処理にも使用できません。
 - カメラ内蔵の電子気泡管はサポートされていません。
- Spectra Geospatial SP90m、SP85、SP80またはSP60受信機を使用する場合、Trimble Accessソフトウェアのすべての機能が使用できるわけではありません。詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート 公示](#)ページからダウンロードできるサポート 公示 **Spectra Geospatial receiver support in Trimble Access**を参照してください。

インストール情報

ライセンス要件

Trimble Access 2025.10をインストールするには、一般観測 / 基本観測アプリのほか、使用したい各Trimble Accessアプリのライセンスが必要です。

- **永久ライセンス**

永久ライセンスは、コントローラにライセンスされます。コントローラには、**14月2025**まで有効なTrimble Access Software Maintenance Agreementが必要です。

- **受信契約**

受信契約ライセンスは、個々のユーザーに割り当てられます。受信契約ライセンスで使用する際、サポート対象の任意のコントローラにTrimble Access 2025.10をインストールすることができます。

既存のコントローラに永久ライセンスがあるが、そのコントローラを廃止して新しいコントローラに交換したい場合は、既存のコントローラから永久Trimble Accessライセンスを放棄して、新しいコントローラに移行できる場合があります。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[ソフト ウェアライセンスとサブスクリプション](#)をご参照ください。

アカウントをお持ちでない場合 ソフトウェアをお試しいただけます

必要なライセンスをお持ちでない場合は、一定期間、ソフトウェアを試すことができます。

オプションは以下の通りです:

- サインインして利用契約を使用できない場合、または永久ライセンスを購入したがコントローラにまだ割り当てられていない場合に備えて、Trimble Access用の**48時間ライセンス**を作成します。
- コントローラに有効な永久ライセンスがない場合、Trimble Accessの**30日間のデモライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応WindowsおよびAndroidコントローラで利用できます。
- コントローラに有効な永久ライセンスがあるものの、試したい特定アプリのライセンスがない場合は、特定Trimble Accessアプリの**30日間の試用ライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応Windowsコントローラでのみ使用できます。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[一時ライセンスのインストール](#)を参照してください。

Trimble Accessのインストールまたはアップグレード

ソフトウェアをコントローラにインストールするには、コントローラのオペレーティングシステムに応じて正しいTrimble Installation Managerを使用します:

- Trimble Installation Manager Windows用 
- Trimble Installation Manager Android用 

詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)の[Trimble Accessのインストール](#)を参照してください。

注意 - 旧バージョンのTrimble Accessを使用して作成されたジョブ(.job)ファイルは、Trimble Accessの最新バージョンで開いた際に自動的にアップグレードされます。アップグレードされたジョブは、旧バージョンで開くことはできなくなります。詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)の[最新バージョンのTrimble Accessで既存ジョブを使用する](#)を参照してください。

学習リソース

Trimble Accessソフトウェアの機能とソフトウェアを最大限に活用する方法の詳細については、以下のリソースを参照してください。

Trimble Accessヘルプポータル

Trimble Accessヘルプポータルは、[Trimble Field Systemsヘルプポータル](#)の一部でhelp.fieldsystems.trimble.com/trimble-access/からご覧いただくことができます。Trimble Accessヘルプのすべての内容を14言語で提供しており、Trimble Access YouTubeチャンネルの動画へのリンクも掲載されています。

Trimble Accessヘルプポータルのダウンロード領域には、以下を含む有用なリソースへのリンクを掲載しています:

- サポート 公示
- ソフトウェアとユーティリティ
- テンプレートファイル

- スタイルシート
- サンプルデータ
- リリース資料(プレゼンテーションや動画を含む)
- PDFガイド

Trimble Accessヘルプポータルは、インターネットに接続されている任意のコンピュータから、Trimble Accessソフトウェアをインストールすることなく表示できます。また、携帯電話からのアクセスや、オンボードヘルプをインストールしないことを選択した場合でも、Trimble Accessを実行しているコントローラからご覧いただくことが可能です。

Trimble Accessヘルプ

Trimble Accessヘルプは、Trimble Installation Managerで**言語とヘルプファイル**チェックボックスを選択すると、ソフトウェアとともにインストールされます。インストールされているヘルプを表示するには、Trimble Accessソフトウェアで**☰**をタップし、**ヘルプ**を選択します。Trimble Accessヘルプが開き、Trimble Accessソフトウェアで現在表示されている画面のヘルプトピックに直接移動します。

Trimble AccessYoutubeチャンネル

Trimble AccessYouTubeチャンネルには、便利なソフトウェア機能を紹介する多数の動画があります。最近追加された機能を紹介する動画や、特定の分野を紹介するプレイリストをご覧いただくことができます。

新しい動画は定期的に投稿されるため、Trimble AccessYouTubeチャンネルページの**登録**をクリックして、新しい動画が公開された時に通知を受け取るようにしてください。

Trimble Accessアプリ

Trimble Accessソフトウェアスイートは、測量士や地理空間の専門家向けに、現場作業を容易にする一連の専門フィールドアプリケーションです。使いやすいインターフェース、最適化されたワークフロー、リアルタイムデータ同期により、Trimble Accessソフトウェアは、日々の作業の成果をさらに高めることを可能にします。実際の作業に最適なアプリケーションを選択することで、競争力の向上を図りましょう。

Windows端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble Accessアプリは、**対応Windowsデバイス**で本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています。

- 道路
- トンネル
- 採掘鉋
- Land Seismic
- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター
- AutoResection
- Bathysurvey

Android端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble アプリは、対応Androidデバイスで本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています:

- 道路
- トンネル
- 採掘 鉱
- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター
- AutoResection
- AllNAV Rounds

注意 - サポートされているTrimble Accessアプリへの変更は、リリース後に変更される可能性があります。最新の情報、またはTrimble Accessの旧バージョンでサポートされているアプリケーションの詳細については、Trimble Field Systems ヘルプポータル¹のTrimble Accessヘルプの**サポート 公示** ページからダウンロードすることができるサポート 公示 **Trimble Access App availability**を参照してください。

法的情報

Trimble Inc.

www.trimble.com

Copyright and trademarks

© 2025, Trimble Inc. All rights reserved.

Trimble, the Globe and Triangle logo, ProPoint, Spectra, and Trimble RTX are trademarks of Trimble Inc. registered in the United States and in other countries. Access, IonoGuard, VISION, and VX are trademarks of Trimble Inc.

For a complete list of legal notices relating to this product, go to help.fieldsystems.trimble.com/trimble-access/ and click the **Legal information** link at the bottom of the page.